

建築・デザイン学科教育目標とカリキュラム



建築・デザイン学科の教育目標

【教育目標】

山形大学及び工学部の教育目標を踏まえ、教育プログラム（建築・デザイン学）では、地域の都市・自然環境に基づいた安全・安心で快適な都市・建築空間を創造することを目指して、健全な価値観と協調性、豊かな人間性及び社会性、実践的に人類の幸福に貢献するための幅広い教養とともに、工学の基礎と建築・デザイン学の専門知識及び技能を養う教育を行います。これらの能力により自ら新分野を開拓しながら、人類の幸福と発展に貢献する技術の創造と産業の創成を実践する人材を育成することを目標としています。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

山形大学及び工学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、教育プログラム（建築・デザイン学）では、基盤共通教育及び専門教育を通じて、以下のような知識、態度及び能力を獲得し、修得した単位数が基準を満たした学生に「学士（工学）」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会性

- （1）専門分野の社会的意義や職業的な責任感を自覚し、倫理的に正しい判断をする能力を身に付けている。
- （2）社会的・職業的に自立心に富み、環境への配慮を十分に行いながら、社会と産業の発展、地域の再生に貢献する意欲を身に付けている。
- （3）他分野の技術者や専門家、市民と協力しながら、課題解決に取り組む能力を身に付けている。

2. 幅広い教養と汎用的技能

- （1）論理的な思考力と記述力、異分野や一般市民に専門分野を平易に説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。
- （2）既存の枠組みにとらわれず、豊かな発想力により計画的に仕事を進め、課題を解決する能力を身に付けている。
- （3）国際的及び歴史的な視点から自然や社会に生じる現象の多様性を的確に捉え、身近な問題を中心に課題解決を先導できる能力を身に付けている。

3. 専門分野の知識と技能

- （1）建築学及びデザイン学の基礎知識と、それらを社会及び産業の発展に応用する能力を身に付けている。
- （2）科学技術・芸術に対する知識・情報を的確に把握する能力と、生涯にわたって自発的かつ継続的に学習できる能力を身に付けている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学及び工学部の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、教育プログラム（建築・デザイン学）では、建築・デザイン学科の学生が体系的かつ主体的に学習できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。

1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 建築学、デザイン学の基礎として、数学、物理学、情報処理及び芸術の基礎科目とそれらを応用する科目を配置する。
- (2) 専門分野における知識と応用力を養うために、建築・デザイン学の基礎となる建築設計、建築計画学、建築構造学、建築環境学及びデザイン学に関する講義、実験及び演習に関する科目を体系的に配置する。
- (3) 論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力及び国際的コミュニケーション基礎能力を身に付けるため、演習、実験、卒業研究及び外国語の科目を配置する。
- (4) 健全な価値観と倫理観を身に付けるため、技術者倫理、社会理解などに関する科目を配置する。
- (5) 豊かなキャリアの実現に向けた職業観と生涯自己学習能力を養うため、キャリアデザイン、インターンシップなどの科目を配置する。
- (6) 建築・デザイン学分野における、新産業と新技術を創成する能力を身に付けるために、最先端の科学・芸術に関する技術が習得できる科目を配置する。

2. 教育方法

- (1) 生涯を通じて主体的に学び続ける動機づけとなるような、多様で学際的な知識と技能が身につく教育を展開する。また、基礎学力の定着を目的とした授業時間外学習を促す。
- (2) 問題や課題に対して、グループで計画的に解決に導き、まとめる能力を身に付けるため、協働による実験、演習及び実践的科目を展開する。
- (3) 社会的・職業的に自立する意識と職業選択を自主的に行える能力を育むため、工学と社会のつながりを理解するための科目を展開する。
- (4) 社会の状況と将来社会の要請を的確に捉え、これに応じて社会の幸福に貢献できる素養を身に付けるため、優れた知識・技能・倫理観・価値観・思考力を融合させるための科目を展開する。
- (5) 卒業時に到達すべき学習目標を学生が的確に設定し、達成できるように、各科目で習得される知識・能力を明示したシラバスと各科目の関係性を可視化したカリキュラムマップを策定する。

3. 教育評価

- (1) 到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、これに基づいて厳格に成績を評価する。
- (2) 学習成果の評価においては、不断の教育課程の点検・学生及び外部からの評価

を組織的に行い，教育課程を組織的に評価し，常に改善を続ける。

- (3) 良識ある市民に求められる知識と技能，さらには主体的・自律的に学習に取り組む姿勢を評価する。

建築・デザイン学科履修心得

建築・デザイン学科は、平成29年度に新設された新しい学科です。科目の履修に関しては、本学科のルールに従った履修をしなければなりません。本履修心得を熟読し、不足のないように履修しましょう。

1. 基盤共通教育科目

(1) 基盤共通教育科目について

基盤共通教育科目は、導入科目、基幹科目、教養科目、共通科目の4つの科目区分からなり、主に1年次に修得します。進級（米沢移行）条件、卒業要件を満たすには、表2の単位を修得する必要があります。履修にあたっては、十分に計画を立て、修得漏れがないようにしてください。履修計画に自信がない場合はアドバイザーとよく相談し、後述する専門教育科目も含め計画的な履修を心がけてください。

(2) 基盤共通教育科目の履修上の注意

① 【導入科目】：授業科目名〔スタートアップセミナー〕

1年前期に開講される科目を修得することが望ましい。2年次に米沢キャンパスに履修地を移行するためには、この科目を必ず修得する必要があります。

② 【基幹科目】：領域名〔人間を考える・共生を考える〕〔山形から考える〕

1年前期に開講される科目を修得することが望ましい。2年次に米沢キャンパスに履修地を移行するためには、どちらの領域とも必ず修得する必要があります。

③ 【教養科目】：領域名〔文化と社会〕〔自然と科学〕〔応用と学際〕【共通科目】：領域名〔情報科学〕〔健康・スポーツ〕〔サイエンス・スキル〕〔キャリアデザイン〕

a. 【共通科目】〔情報科学〕は必修科目であり、1年次に修得しておくことを強く推奨します。

b. 【教養科目】〔文化と社会〕のうち〔建築職能論（社会と倫理）〕は必修科目で、3年後期に開講されます。

c. 前記b.を除く【教養科目】〔文化と社会〕と【共通科目】〔キャリアデザイン〕から8単位以上修得することが必要です。

d. 【共通科目】〔サイエンス・スキル〕は〔微分積分学Ⅰ〕と〔微分積分学Ⅱ〕2科目4単位及び〔力学の基礎〕を修得することを推奨します。

e. 【教養科目】〔自然と科学〕と【共通科目】〔サイエンス・スキル〕から合計6単位以上修得することが必要です。

f. 【教養科目】（全領域）と【共通科目】〔情報科学〕〔健康・スポーツ〕〔サイエンス・スキル〕〔キャリアデザイン〕から、上記a.～e.を含めて24単位以上修得することが必要です。

④ 【共通科目】：領域名〔コミュニケーション・スキル1〕〔コミュニケーション・スキル2〕

a. 〔コミュニケーション・スキル1〕〔英語1〕

1年次に4単位開講されます。卒研着手及び卒業には4単位必要です。2年次に

米沢キャンパスに履修地を移行するためには、2単位以上修得することが必要です。小白川キャンパスで4単位に満たない場合は、2年次以降に米沢キャンパスで開講される〔英語1〕を履修することで補充することができますが、できるだけ1年次に4単位修得することを推奨します。

b. 〔コミュニケーション・スキル1〕〔英語2〕

2年次に米沢キャンパスで開講されます。卒研着手及び卒業には2単位必要です。これを越えて修得した単位数は、表1に基づいて4単位までを専門教育科目の選択科目として、算入することができます。ただし、基盤共通教育科目から専門教育科目に算入できるのは合計6単位までです。

c. 〔コミュニケーション・スキル1〕〔英語3〕

2年次に米沢キャンパスで開講されます。卒業要件には入りませんが、修得すると表1に基づいて2単位までを専門教育科目の選択科目として、算入することができます。ただし、基盤共通教育科目から専門教育科目に算入できるのは合計6単位までです。

d. 〔コミュニケーション・スキル2〕（初修外国語）

コミュニケーション・スキル2（初修外国語）は、1年次にドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語及び韓国語がそれぞれ4単位開講されます。修得すると表1に基づいていずれか1か国語4単位までを専門教育科目の選択科目として算入することができます。ただし、基盤共通教育科目から専門教育科目に算入できるのは合計6単位までです。

また留学生の場合、〔日本語〕を修得し、その単位を〔コミュニケーション・スキル2（初修外国語）〕の単位として振り替えることができます。その場合、専門教育科目への算入可能単位数は、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語のいずれか1か国語と合わせて4単位までとします。

表1 コミュニケーション・スキルの専門教育科目への算入可能単位数

区分		最低修得単位を超えて修得した単位の、専門教育科目への算入可能単位数
領域	分野／科目名	
コミュニケーション・スキル1	英語1	なし
	英語2	4
	英語3	2
コミュニケーション・スキル2	ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語	4 (いずれか1か国語)
		合計6単位まで

2. 専門教育科目

(1) 専門教育科目について

建築・デザイン学科の専門教育科目は、「建築・デザイン学科専門教育科目及び単位数表」にしたがって開講されます。履修にあたっては、履修心得に留意して、無理のない学習の計画を立ててください。また、表中の科目は、事情により多少変更されることがあります。この場合には、掲示等により周知します。

(2) 専門教育科目の区分と指定

専門教育科目には、必修科目・選択必修科目・選択科目の指定があります。それぞれの定義は以下のとおりです。

区分	表中の記号	定義
必修科目	◎	修得が義務付けられている科目
選択必修科目	○	設定された科目枠から、各自選択の上、一定単位数の修得が義務付けられている科目
選択科目	なし	修得が各自の選択にまかされている科目 必要単位数を超えて修得した選択必修科目、他学科開講科目（4単位まで）、及び定められた基盤共通教育科目（6単位まで）を算入可

選択必修科目の科目枠は以下のとおりです。

- ※ 建築設計製図系科目とは、図学、建築CAD・プログラミング演習、建築設計製図Ⅲの3科目である。ただし、卒業後実務経験年数0年で一級建築士試験の受験を希望する場合は、建築設計製図Ⅲを履修することが求められる。
- ※ 建築計画系科目とは、西洋建築史、住環境論、施設計画の3科目である。
- ※ 建築構造・材料系科目とは、地盤工学、建築一般構造、耐震構造、建築材料学、建築材料学実験の5科目のことである。

また、教育職員免許状（高等学校教諭一種免許状（工業））の授与を受けるには、教職必修科目（「工業技術概論」及び「職業指導」：科目表中の★）と、「教科に関する科目」（科目表中の☆）から所定の単位数を修得する必要があります。ただし、教職必修科目は進級及び卒業に必要とする単位に数えることはできません。詳細は、P. 127各種資格欄の「I. 教育職員免許状について」を参照してください。

(3) 卒業研究

「卒業研究」は原則として建築・デザイン学科に所属する研究室において行い、単位修得には1年以上の研究期間を要します。建築・デザイン学科においては「卒業研究」を行うにあたり、「卒業論文」又は「卒業設計」のいずれかを4年次進級時（7学期開始時）に選択します。どちらを選択するかについては、指導教員とよく相談して決めてください。

(4) 他学科開講科目の履修

他学科に開講されている専門教育科目は、4単位まで選択科目として修得することができます。履修を希望する場合には、アドバイザー及び当該授業担当教員の許可を得なければなりません。なお、自学科開講科目と同一名の科目は、履修できないので注意してください。

3. 進級（米沢移行）条件・卒研着手条件・卒業要件

（1）進級（米沢移行）条件・卒研着手条件・卒業要件とは

① 進級（米沢移行）条件

建築・デザイン学科では、1年次は小白川キャンパスにおいて基盤共通教育科目及び一部の専門科目を履修し、2年次以降は米沢キャンパスにおいて専門科目を履修します。米沢キャンパスで集中して専門教育を受けるために必要な、1年次の学修条件が進級（米沢移行）条件として定められています。進級（米沢移行）条件が満たせずに小白川キャンパスの在学期間が3年を超える（休学期間を除く）学生は、成業の見込みがない者として除籍されます。

② 卒研着手条件

4年次に行われる卒業研究に集中して望むために必要な学修条件で、この条件を満たさないと卒業研究を始められません。

③ 卒業要件

卒業のためには、4年以上在学（休学期間を除く）し、以下に示す卒業に必要な最低修得単位数を満たすことが必要です。

（2）基盤共通教育科目の進級（米沢移行）条件・卒研着手条件・卒業要件

基盤共通教育科目の進級（米沢移行）条件・卒研着手条件・卒業要件は表2のとおり定められています。ただし、1年次のうちに2年次以降に開講される「建築職能論（社会と倫理）」と「英語2」を除く単位を充足しておくことを強く推奨します。

表2. 基盤共通教育科目履修方法

科目	領域	分野名/科目名	必要な最低修得単位数			
			進級（米沢移行）	卒研着手	卒業	
導入科目	スタートアップセミナー	スタートアップセミナー	2	2	2	
基幹科目	人間を考える・共生を考える	人間を考える 共生を考える	2	2	2	
	山形から考える		2	2	2	
教養科目 及び 共通科目	文化と社会	建築職能論 （社会と倫理）		[3]	2	
	キャリアデザイン		8	8	8	
	自然と科学		6	6	6	計 14
	サイエンス・スキル					計 20
	応用と学際					
	健康・スポーツ					
	情報科学		[3]	2	2	
	コミュニケーション・スキル1 ^[1]	英語1	2	4	4	
		英語2		2	2	
		英語3				
	コミュニケーション・スキル2 ^{[1],[2]}					

[1] 基盤共通教育科目の「コミュニケーション・スキル1及び2」の単位を卒業要件以上に取得した場合は、専門教育科目の選択科目として合計6単位まで数えることができる。詳細は、「1. 基盤共通教育科目（2）④」を参照すること。

[2] 留学生の場合、[日本語]を修得し、その単位を「コミュニケーション・スキル2（初修外国語）」の単位として振り替えることができる。

[3] 「建築職能論（社会と倫理）」は6学期に、「情報科学」は、1学期に単位を修得しておくことが望ましい。

(3) 専門教育科目の進級（米沢移行）条件・卒研着手条件・卒業要件

専門教育科目の進級（米沢移行）条件・卒研着手条件・卒業要件は以下のとおり定められています。

表 3

科 目 区 分		必要単位数		
		進級（米沢移行）	卒研着手	卒業
必修科目		6	14	20
選択必修科目	建築設計製図系科目	0	2	2
	建築計画系科目		2	2
	建築構造・材料系科目		4	4
選択科目		0	52	56
卒業研究		0	0	10
計		6	74	94

- ✓ 選択必修科目は、必要単位数を超えて修得した場合、選択科目の単位として読みかえられます。
- ✓ 選択科目は、カリキュラム表で◎や○が付されていない科目、必要単位数を超えて修得した選択必修科目です。この他に、2. に記した他学科で開講されている専門教育科目を4単位まで、1. に示した基盤共通教育科目の「コミュニケーション・スキル1及び2」の科目を合計4単位まで含めることができます。

4. 研究室配属について

建築・デザイン学科では、7学期から卒研着手のための研究室配属を行います。

5. 取得可能な資格

建築・デザイン学科では、所定の要件を満たした場合、教育職員免許状（高等学校教諭一種免許状（工業））を取得することが可能です。詳細は、P.127各種資格の「Ⅰ. 教育職員免許状について」を参照してください。同様に、所定の要件を満たした場合、一級・二級・木造建築士、一級・二級建築施工管理技士の受験資格及びインテリアプランナーの登録資格を得ることが可能です。詳細は、P.127各種資格の「Ⅲ. 一級建築士・二級建築士・木造建築士受験資格のための履修方法等について」「Ⅳ. インテリアプランナー登録資格取得のための履修方法等」「Ⅴ. 一級・二級建築施工管理技士受験資格のための履修方法等」を参照してください。なお、記載内容には変更が生じる場合がありますので、注意してください。変更がある場合には、オリエンテーション・掲示等でお知らせします。

建築・デザイン学科専門教育科目及び単位数表

区分	授業科目名		単位数	開講期及び週時間数								必修・選択の別	教職科目	担当教員 (備考)
				1 学期	2 学期	3 学期	4 学期	5 学期	6 学期	7 学期	8 学期			
専門教育科目	開小白川キャンパス 科目	建築学概論	2	2								◎	☆	永井
		デザイン概論	2	2								◎		建築・デザイン学科教員
		日本建築史	2		2							◎	☆	永井
		木質構造概論	2		2								☆	三辻・濱・汐満
	図学		2			2						○	☆	永井
	基礎設計製図		2			4						◎	☆	永井・濱
	新材料加工学		2			2							☆	日高
	西洋建築史		2			2						○		永井
	環境工学		2			2						◎	☆	非常勤講師
	環境工学演習		2			2								日高
	住居計画学		2			2						◎	☆	佐藤
	建築構造力学		2			2						◎	☆	三辻
	建築構造力学演習		2			2								三辻・汐満
	測量学		2			2								非常勤講師
	測量学実習		2			4								非常勤講師
	建築一般構造		2				2					○	☆	三辻・濱・汐満
	建築法規		2				2						☆	非常勤講師
	建築設計製図 I		2				4					◎	☆	永井・濱
	建築 CAD・プログラミング演習		2				2					○	☆	汐満・濱
	建築設備		2				2						☆	非常勤講師
	建築材料学		2				2					○	☆	三辻

区分	授業科目名	単位数	開講期及び週時間数								必修・選択の別	教職科目	担当教員 (備考)
			1 学期	2 学期	3 学期	4 学期	5 学期	6 学期	7 学期	8 学期			
専門教育科目	インテリアデザイン論	2				2							非常勤講師
	ユニバーサルデザイン論	2				2						☆	佐藤・非常勤講師
	建築計画	2				2							非常勤講師
	環境自然科学演習	2				2							日 高
	建築設計製図Ⅱ	2					4				◎	☆	佐藤・濱・非常勤講師
	住環境論	2					2				○	☆	佐 藤
	施設計画	2					2				○	☆	佐 藤
	耐震構造	2					2				○	☆	三 辻
	建築材料学実験	2					4				○	☆	三 辻 ・ 汐 満
	建築環境エネルギーデザイン	2					2					☆	日 高
	建築環境リサイクル	2					2					☆	日 高
	建築史演習	2					2					☆	永 井 ・ 濱
	地震工学	2					2						非常勤講師
	地域景観デザイン論	2					2						高 澤 ・ 佐 藤
	新材料加工学演習	2					2						日 高
	住まいと庭園	2					2						佐 藤
	都市・地域計画演習	2					2						高 澤 ・ 佐 藤
	建築設計製図Ⅲ	2						4			○	☆	非常勤講師・佐藤・濱
	都市・地域計画	2						2			◎	☆	佐 藤 ・ 高 澤
	地盤工学	2						2			○		三 辻
	建築施工	2						2				☆	三 辻
	景観設計	2						2				☆	佐藤・高澤・非常勤講師
	木質構造デザイン演習	2						2				☆	三 辻
	建築構造デザイン	2						2				☆	三 辻 ・ 汐 満
	木質構造デザイン	2						2				☆	三 辻 ・ 汐 満
	建築環境エネルギーデザイン実験	2						4				☆	日 高
	建築環境実験	2						4				☆	日 高
	建築計画演習	2						2					非常勤講師
	建築設計製図Ⅳ	2							4			☆	非常勤講師・佐藤・濱

区分	授 業 科 目 名	単 位 数	開講期及び週時間数								必修・ 選択の別	教 職 科 目	担 当 教 員 (備 考)
			1 学 期	2 学 期	3 学 期	4 学 期	5 学 期	6 学 期	7 学 期	8 学 期			
専門 教育 科目	振動論	2							2			☆	三 辻 ・ 汐 満
	工業英語	2							2				日 高
	デザイン基礎	2			2								八 木
	地域デザイン論	2			2								建築デザイン学科教員
	地域デザイン演習	2				2							建築デザイン学科教員
	デザイン演習	2					2						八 木 ・ 濱
	インダストリアルデザイン	2						2					非 常 勤 講 師
	ゼミナール	2											建築・デザイン学科教員
	卒業研究	10											建築・デザイン学科教員
	学外実習（インターンシップ）	2											建築・デザイン学科教員
	アントレプレナーシップ養成 イノベーション特別講義	[2]											
	建築・デザイン特別講義	[2]											建築・デザイン学科教員
	単位互換科目												
	確率統計学	2							2				大 槻
	安全工学	2							2			☆	桑 名
	数値解析	2							2			☆	神 谷
	知的財産権概論	2							2				非 常 勤 講 師
	小 計	136 [140]											
教職 必修 科目	工業技術概論	2					2					★	各 学 科 担 当 教 員
	職業指導	2										★	各 学 科 担 当 教 員
	小 計	4					2						
合 計		140 [144]	4	4	30	24	34	30	16				

[注] ◎：必修科目（修得が義務付けられている科目）

○：選択必修科目（設定された科目枠から、各自選択の上、一定単位数の修得が義務付けられている科目）

空欄：選択科目（修得が各自の選択に任されている科目）

☆：免許科目「工業」の教科に関する科目

★：免許科目「工業」の教科に関する科目（必修）

[]：特別講義単位数

()：再履修クラス単位数

建築・デザイン学科 履修科目のつながり

